

日本医学教育学会
Japan Society for Medical Education

**卒前教育・初期臨床研修修了時点の「期待される医師像」，ないし「医学教育コンピテンス」
暫定案 (Ver.1)**

**An Image of the Expected Physician, or Competence, at the Completion of Mandatory
Medical Education in Japan, First Draft**

日本医学教育学会では，文部科学省ならびに厚生労働省と共催で「医学教育者のためのワークショップ（富士研ワークショップ）」を毎年開催している．平成26年の同ワークショップでは，卒前医学教育および卒後臨床研修に関わる参加者が，「これからの医師をどう育てるか」をテーマにニーズの抽出を行い，それを満たすために医師に求められる資質や能力の全体像を討議した．

そのプロダクトをもとに同学会FD委員会では，卒前教育・卒後研修修了時に「期待される医師像」，ないしは「医学教育コンピテンス」を作成し，同学会コア・コンピテンス教育委員会と連名で理事会に提出した．医学教育は生涯にわたって継続するものであり，卒前教育・卒後研修の8年間に留まるものではないが，今回は本邦において必修となっている卒前・卒後の医学教育の一貫性をまず重視して，卒前教育・卒後臨床研修修了時の到達目標として，まとめたものである．また，ここで言うコンピテンスとは，多数の領域や様々な状況にまたがって発揮される能力（知識，技能，態度）を網羅したもの¹⁾²⁾である．

今後も各方面から多くの意見をお寄せ頂いて学会全体で協議を継続し，完成版へと育てて頂ければと願っている．

- 1) **診療技術・患者ケア (Clinical Skills and Patient Care)**
- 2) **医学的知識 (Medical Knowledge)**
- 3) **医療安全 (Patient Safety)**
- 4) **チーム医療 (Interprofessional Collaboration)**
- 5) **コミュニケーション (Communication)**
- 6) **医療の社会性 (System-based Practice)**
- 7) **倫理とプロフェッショナリズム (Ethics and Professionalism)**
- 8) **自律的学習能力 (Continuing Professional Development)**

1) 診療技術・患者ケア (Medical Skills and Patient Care)

医療面接や臨床手技などの診療技能は医師が修得しなければならない重要項目である．その中には患者・家族との情報共有や接遇・態度等の能力も含まれることを明確にするため，患者ケアを診療技

術に加えている。つまり、この臨床能力は単なる診療技能だけではなく、患者背景（社会・心理・経済・教育・家族関係など）の全てに対応する診療態度を含めた臨床実践能力を示している。

2) 医学的知識 (Medical Knowledge)

医療において医学的知識の修得は必要不可欠であり、コアカリキュラムおよび医師臨床研修の到達目標・経験目標に記載されている内容が基本的医学知識に包含される。

3) 医療安全 (Patient Safety)

安心・安全は国民が望む医療であり、その実践のために必要な知識や技能、制度・体制の実際と活用、施設での運用を身につけなければならない。

4) チーム医療 (Interprofessional Collaboration)

多職種連携による診療・医学教育は現代の医療環境に必要であり、領域によっては患者・家族を含めた医療チームの一員として、また時にはその中でリーダーシップを発揮する能力、相互に教育を行い自己研鑽する能力を修得する必要がある。

5) コミュニケーション (Communication)

この領域には、患者・家族を含めた医療チーム内、同僚やメディカル・スタッフ、他診療科・他院、社会とのコミュニケーション能力を含む。

6) 医療の社会性 (Systems-based Practice)

社会基盤に基づく医療の実践、特に保険制度等の理解とその活用、地域包括などの制度に伴う各種施設の実際とその連携等の実践を含む。

7) 倫理とプロフェッショナリズム (Ethics and Professionalism)

医のプロフェッショナリズムとは、医師個人あるいは専門職集団の一員として、患者中心の医療の実践を初めとする社会的使命を果たすため、常に社会からの信頼に値する行動を取り、日々省察を重ねて、さらなる高みをめざす姿勢である。その意味で、医師としての活動全般の基盤をなす概念であり、医師に求められるすべての能力の源泉となる価値観である。また、医療が高度化し、生命の操作さえも可能となりつつある今日、医師にはそのような行為をなすものとして高い倫理的対応力が求められる。

8) 自律的学習能力 (Continuing Professional Development)

社会的ニーズの変化や医療の進歩に対応し、自らの学習や診療の質の継続的な向上を図るため、修得した自らの知識や能力を振り返り、新たな学習の必要性を認知して、信頼できる情報を得て批判的に吟味し、その学びをその後の学習や診療に活かす能力である。

参考文献

- 1) Frank JR, Snell LS, Cate OT, et al. Competency-based medical education: theory to practice. Med Teach 2010; 32: 638-45.
- 2) Englander R, Cameron T, Ballard AJ, et al. Toward a common taxonomy of competency domains for the health professions and competencies for physicians. Acad Med 2013; 88: 1088-94.